

登録コード	L2031000	開講年度	2026	
担当教員	澁谷 豊	副担当		
授業科目	比較文学基幹演習IV			
英文授業名	Comparative Literature : Basic Seminar IV			
授業タイトル				
単位数	2	対象学生		講義期間 後期 曜日・時限 月曜・4時限
講義室	人文204演習室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ			
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	比較文学の基礎学力と専門的学力を身に着け、学士（文学）の称号にふさわしく思索し、受容し、判断できるようになる。
	【2023年度以降カリキュラム対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身につけている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】		⇔	文学の比較研究に必要な情報を的確に収集し、理解し、発信することができるようになる。
授業で学べる「テーマ」	芸術文化			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	19世紀、20世紀のフランス詩の代表作の中から、比較文学的に重要で、かつ、割合「語学的」に易しい作品6～7編を原語で精読しましょう。その過程で、フランス詩法の基礎も学びましょう。 第2回から第7回目の授業では、毎回、フランス語の詩を原文で読むと同時に、その日に取り上げた作品と関わりの深い日本の詩や個性的な訳詩を紹介しますので、各自で大学の図書館などを利用してその詩作品や訳詩を探し出し、読み比べて楽しんでください。楽しんだ結果を発表してもらい場も設けます（第9回～第14回）。なお、発表時には、まずフランスの詩を音読し、ついで、発表者自身によるそのフランス詩の翻訳を提示した上で、本題に入ってもらいます。受講生の人数にも寄りますが、発表は2～3人のグループによる発表になる可能性もあります。 学期末の試験期間中に試験を行います。			
授業計画	1.ガイダンス（授業のねらいと進め方を解説し、参考文献を紹介する。） 2.ボードレールの詩の講読＋同作品と関係の深い日本の詩の紹介 3.ヴェルレーヌの詩の講読＋同作品と関係の深い日本の詩の紹介 4.ランボーの詩の講読＋同作品と関係の深い日本の詩の紹介 5.ヴェルハーレンの詩の講読＋同作品と関係の深い日本の詩の紹介 6.デスノスの詩の講読＋同作品と関係の深い日本の詩の紹介 7.シュペルヴィエルの詩の講読＋同作品と関係の深い日本の詩の紹介 8.発表資料の作り方などの解説。 9.受講生発表 その1）「ボードレールの詩と日本の詩」 10.受講生発表 その2）「ヴェルレーヌの詩と日本の詩」 11.受講生発表 その3）「ランボーの詩と日本の詩」 12.受講生発表 その4）「ヴェルハーレンの詩と日本の詩」 13.受講生発表 その5）「デスノスの詩と日本の詩」 14.受講生発表 その6）「シュペルヴィエルの詩と日本の詩」 15.まとめ（15分を授業アンケートにあてます。） 受講生の理解と関心に応じて計画を変更することがあります。 期末試験を行います。			
成績評価の方法	発表（40％）、期末試験（30％）、授業への参加度（30％）で評価します。			
成績評価の基準	1）フランス詩を原語で読むことができ、（2）比較文学の立場からフランスの詩と日本の近代詩の関係に関する具体的な知見を述べることができ、（3）論理的で学術的体裁の整った発表をすることができ、（4）授業中に紹介した文献を幅広く参照することができ、（5）質疑応答を通して今後の研究の可能性と課題を発見することができ、さらに（1）から（5）までの項目に加えて、独自の視点から新たな課題に対する解決の道筋を提示することができれば「卓越している」。（1）から（5）の項目を満たしていれば「かなり上にある」。（1）から（4）の項目までできていれば「やや上にある」。（1）から（3）の項目までできていれば「合格水準にある」と評価されます。			
事前事後学習の内容	事前学習としては、まず、フランス語のテキストを丁寧に読むことです。正確に音読することができるようにし、語彙、構文に関する疑問点を明らかにし、内容について自分なりの解釈を持った上で授業に臨んでください。また第9回目以降は、自分の発表の準備をするのは当然として、それに加えて、事前に示される他の人の発表のハンドアウトをよく読み、質問、反論を考えてきてください。 事後学習としては、授業で解説されたフランス語の詩を、意味、構文を確かめながら、繰り返し繰り返し、それこそ暗記するまで読むことです。また、授業中に紹介した文献を大学図書館などに足を運んで入手し、幅広く参照することも必要となります。			
履修上の注意	原則として、大学でフランス語を1年半以上勉強した方、あるいはそれに相当するフランス語力を持った方を対象とした授業です。その点で不安をお持ちの方は、事前にご相談ください。			

履修上の注意	3年生になるときに渋谷豊研究室（比較文学）に進むことを希望している2年生、および、現在、同研究室に所属している3年生には、この授業を履修することを強く勧めます。もちろん、それ以外の方にも開かれた授業です。 出席は、出席確認システムを利用してとります。
質問、相談への対応	メールでランデ・ヴーをとること。yshibuya@shinshu-u.ac.jp
教科書	eALPSにアップしたファイル「比較文学基幹演習・フランス近代詩」を教科書として使用します。
参考書	大盛晋輔『フランスの詩と歌の愉しみ—近代詩と音楽』東京藝術大学出版会 2012年 亀井俊介・沓掛良彦『名詩名訳ものがたり—異郷の調べ』岩波書店 2005年 その他、教場で指示します。